

## 令和3年度 東京都立保谷高等学校 学校経営報告

## 過去3年の数値動向と今年度の数値目標及び実績

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	今年度目標
教員相互の授業参観延べ回数	230回	▼220回	▼211回	250回 △501
授業満足度(学校評価アンケートより)	61.1%	▼55.5%	△67.4%	68% △67.6%
英検準2級以上合格者数	125名	▼101名	△225名	230名 ▼202名
GTECスコア CEFR A2以上(1年)	29.8%	△36.8%	実施なし	実施なし
GTECスコア CEFR A2以上(2年)	31.0%	△63.1%	△83.3%	85% ▼83.1%
夏期冬季講習受講者数 (延べ)	2247名	△2752名	▼1048名	3000名 △4515名
生徒の1日平均学習時間 (平日9月)	1年 52分 2年 36分	1年 ▼39分 2年 △58分	1年 ▼38分 2年 ▼57分	1年60分 △49分 2年90分 ▼48分
外部模試(1月実施)偏差値	1年 46.3 2年文 46.1 2年理 42.7	1年 △46.5 2年文 △47.1 2年理 △45.3	1年 ▼45.0 2年文 △49.9 2年理 △45.6	1年 50 ▼44.0 2年文 ▼46.1 2年理 ▼42.5
大学入試センター試験(共通テスト)偏差値	48.2	△48.9	▼47.4	50.0 △49.5
現役進路決定率	88.7%	△91.8%	△92.7%	95% ▼78.1%
4年制大学合格者数(現役)	337名	△416名	△512名	520名 △593名
国公立大学合格者数(現役)	4名	▼2名	▼1名	5名 △2名
私立大学(早慶上智理科) 現役合格者数	4名	▼3名	▼2名	5名 △6名
私立大学(GMARCH) 現役合格者数	16名	△22名	△28名	30名 ▼28名
私立大学(成成獨国武明学) 現役合格者数	16名	△26名	△48名	50名 ▼45名
私立大学(日東駒専)現役 合格者数	32名	△85名	△112名	115名 ▼91名
年間遅刻30回以上の生徒 数	39名	△18名	△3名	10名 ▼10名
年間遅刻延べ回数	4965回	△3563回	△2035回	1700回 ▼2156回
特別支援教育に関する 委員会の開催回数	26回	△28回	▼23回	30回 ▼22回
統一体力テスト体力合計 平均値	53.7	△54.0	▼53.6	55.0 ▼52.9%
部活動加入率	81.0%	△86.0%	△95.0%	95.0% ▼94.0%
学校満足度(生徒)(学校 評価アンケートより)	56.7%	▼49.5%	△58.6%	60.0% △59.5%
学校満足度(保護者)(学校 評価アンケートより)	84.3%	▼77.8%	△82.0%	85.0% ▼81.9%
生徒の特別活動満足度	59.5%	▼52.7%	△82.9%	85.0% ▼81.0%
体育祭、文化祭来場者数	3814名	△4622名	▼3905名	4000名 感染症防止対策 のため非公開

学校説明会参加者数(本校実施分)	1 2 7 0 名	▼ 9 2 9 名	△ 1 3 9 1 名	1 4 0 0 名 ▼ 1 3 8 8 名 (人数制限実施)
中学校進学対策委員会 志願倍率	1. 2 8 倍	▼ 1. 0 1 倍	△ 1. 2 8 倍	1. 3 0 倍 1. 2 8 倍
入学選抜応募倍率(推薦・ 一次募集)	推薦 2. 7 8 倍 前期 1. 3 4 倍	推薦▼ 2. 6 3 倍 前期▼ 1. 2 5 倍	推薦△ 2. 6 7 倍 前期△ 1. 4 1 倍	推薦 2. 8 0 倍 △ 2. 8 3 前期 1. 4 3 倍 △ 1. 4 9
ホームページ更新回数	2 5 0 回	(一) 2 5 0 回	▼ 2 0 9 回	3 0 0 回 △ 2 3 9 回
一般需用費のセンター 執行率	▼ 4 9. 0 %	▼ 4 5. 6 %	△ 4 8. 1 %	5 0. 0 % ▼ 4 5. 2 %

## 2 今年度の主な取組

### (1) 学びの保障

- ア オンライン学習の活用による学習保障、HPやクラウドサービス等を活用した課題配信
- イ 校内寺子屋(放課後学習)や補習・追試等を通じた基礎・基本の定着
- ウ 定期考査前の7時間目(全生徒を対象とした放課後の自学及び補習)実施
- エ 補講用の動画配信、夏季休業期間における講習及び予備校サテライン講座の実施

### (2) 教員の授業力向上

- ア 管理職による授業観察(2回)後の個別指導と生徒による授業評価(外部委託)の活用(1回)
- イ 大手予備校主催の教員対象セミナーへの参加(5名)
- ウ 相互授業参観(501回)

### (3) 指定校事業の活用

- ア ALCMコミュニティ参加校: グランドデザイン作成及び新教育課程の編成、成果発表等
- イ 英語教育推進校: GTEC及び英検等を活用した英語4技能の計画的育成
- ウ 学力向上研究校: 校内寺子屋(放課後学習)を通じたきめ細かな学習支援

### (4) 特別活動の工夫

- ア 感染症防止対策を施した上での学年行事の実施
- イ 係・委員会活動等を通じた生徒の主体性・判断力・行動力の育成
- ウ 部活動参加生徒の自発的行動力を高める指導の工夫

### (5) コロナ禍における募集対策

- ア 学校の特色の明確化・可視化
- イ 生徒(部活動・生徒会・放送委員会)による学校紹介動画のホームページ掲載
- ウ 中学校及び私塾への学校紹介DVDの送付
- エ 学校見学会及び学校説明会での生徒による学校案内

### (6) 感染症防止対策

- ア 生徒登校時、昇降口にて体温チェック、担任は教室で生徒の健康観察
- イ 毎時窓、ドアの開放、サーキュレーターを活用するなどして換気の徹底
- ウ 昼食時の校内放送による注意喚起と教員の巡回
- エ 放課後、共用箇所の消毒作業

### (7) 50周年事業の実施

- ア 感染症対策に基づく記念事業の実施
- イ 地域、保護者、同窓会、都教委との連携による事業の実施。
- ウ 記念誌の完成、記念式典に変わる行事の実施、記念品の補助

## 3 今年度の成果と課題

### (1) 学習指導

成果: 生徒の基礎・基本の確実な定着、学習習慣の確立、学力の向上を目指して取り組んだ。また、新学習指導要領に向けた教育課程の整備などを行い、指導内容の確立を図った。オンライン学習も整備し時間割に沿って全校で授業を行うことができた。こうして、生徒の学習への取組、教員の学習指導に対する取組は今年度も本校における学習活動を推進させた。昨年度に比べて今年度は、学校評価における授業満足度が約1.7ポイント増となった。長期休業中の講習受講者数が4.4倍と大幅に増加した。教員相互の授業参観総数は2倍に増加した。一日当たりの家庭等自主的学習時間は、1年は平均で9分上昇した。

課題: 1月実施外部模試偏差値は、前年度と比べて、1年では1.0、2年では文系3.8、理系は3.1にそれぞれ下降した。一日当たりの家庭等自主的学習時間は2年では平均で9分下降した。

考察: 来年度から実施される新教育課程とそれに関連した学習内容や学習方法などの大きな変更に伴う様々な準備を行った。今後もさらにその推進が必要である。今年度、長期休業中の講習受講者数と教員相互の授業参観総数は大幅に増加した。生徒の学ぶ姿勢と教員の授業力向上についての取組の姿勢が高まったものと思われる。学習効果が高まるよう、さらに継続して取り組んでいきたい。授業満足度は、昨年度とほぼ同じ数値となった。「学ぶことの意義」を問う質問に対する肯定的回答の

割合は58.8%と他の授業満足度に関連する内容と比べ、今年度も低くなっており、学習指導を推進する際に、生徒の意識を高めるための具体策を講ずることが必要である。

## (2) 進路指導

成果：3年間のキャリア教育計画に基づき、進路指導部が学年や教科等と連携し、目標達成までのプロセスを重視したミスマッチのない指導を行った。データに基づく個別指導により生徒の第一志望の進路実現を目指して指導を行った。また、探究活動の充実により進路意識を高めた。進路指導部主催の校内研修を実施し、大学説明会や大手予備校他民間教育機関の実施する教員対象の研修会に参加して進路指導に対する指導力を高めた。今後も合格者数が増える見込みであるが、現時点で前年度と比べて、4年生大学の合格者総数が81名増、国公立大学合格者数が1名増、早慶上理現役合格者数が4名増、GMARCHの合格者数が同数であった。

課題：前年度と比べて、成成獨国武明学の合格者数が3名減、日東駒専の合格者数は21名減となっている。ただし、この人数は今後も増加する見込みである。

考察：今年度も計画的な進路指導や生徒の努力により進路決定に至った例が多かった。昨年度始まった新たな大学入試制度とコロナ対応による受験の変更等による対応は困難なことが多かったが、できる限りの適切な情報を得て、それらを受験指導などに活かした。成果にあるように、今年度も綿密な進路指導を行うことにより生徒の進路実現に貢献した。来年度さらに有用な進路指導を行うことが重要である。

## (3) 生活指導

成果：服装、頭髪、化粧などの身だしなみに関する禁止事項に対し、極端に違反する生徒や違反を繰り返す生徒はほぼいない。また、いじめ案件として挙げられるような事例もなかった。通学時の安全指導も常に行った。主に生活指導部、学年の担任を始め教員が地道な取組を行い、生活指導の効果をあげた。

課題：自転車を中心とした通学マナーに関しては、日常の指導や朝の通学指導などで改善されてきたが安全に対する意識が低い生徒も若干いるため、大分減ってきたが近隣からの苦情の解消には至っていない。前年度と比べて、遅刻30回以上の生徒数は、昨年度の3名から10名に、年間延べ遅刻数は、2035回から2156回となりやや増加した。

考察：学校評価において、規則正しい生活習慣、自転車乗車時のルール順守と思いやりの心、相談できる人の有無、SNSの正しい使い方、家庭でのルール設定、規律ある生活、良好な人間関係を構築できているか等の問いには概ね生徒・保護者ともに肯定的回答をしている。本校が「いじめの防止を含め、安心して通える学校づくり」のためにしっかりと生活指導を行っていることが大きく影響していると思われる。引き続き、生徒に粘り強く身だしなみ指導の意義を理解させるよう努めていく。また、遅刻回数増が長期欠席者の遅刻増と重なることが多いため、個々の生徒への適切な支援も必要となる。生活指導が定着してきているので、さらに規範意識の向上などが図れるよう、次の段階の生活指導に進めていく。

## (4) 健康教育

成果：昨年度はコロナ禍で体力テストを通常どおりに実施できなかったが、今年度は6月に実施することができた。統一体力テスト合計平均値はやや昨年度より下がったが、例年並みの52.9であった。男女とも東京都平均を上回った。女子は2年で全国平均と同じ数値で、1・3年もほぼ全国平均に迫る数値であった。体育祭も2学期に学年別ではあるが実施することができた。健康教育と共にコロナ対策を徹底した。消毒、換気、手洗い、マスクの着用、黙食、巡回指導、掲示、健康管理等十分な指導を行い、感染防止に努めた。また、ゴミの分別排出減に努めた。排出量は年間7.8tで昨年度より1.0t減であった。地域清掃活動も制限の中、工夫して行った。

課題：男女とも「ハンドボール投げ」は得点が高い傾向があったが、「長座体前屈」「持久走」の得点がやや低い傾向であった。他の項目を含めて課題となる点を補うことが必要である。長時間粘り強く続けていく運動を取り入れるようにする。今後もコロナ対策を含めた、心身共に健康教育の継続が必要である。また、美化活動の推進も必要である。

考察：コロナ禍により実技教科は多くの制限を受けたが、体力の向上を含め、心身共に健康教育を推進することができた。また、今年度も今年度も、コロナ禍のため、環境保全に係る地域貢献活動にあまり取り組むことができなかったが、活動に制限がある中でも地域の清掃活動などを行った。活動に対し、地域の方から励ましのお言葉もいただいた。今年度も、SDGsを意識しながらの探究活動等に力を注いだ。引き続き、コロナ禍で活動が制限された中でも活動の工夫をし、地域と緊密な連携を図っていくことが必要である。

## (5) 特別活動

成果：コロナの制限の中、学年別での文化祭、体育祭、その他の行事を行うことができた。部活動も制限される中、感染症対策を徹底し、試合、練習等に臨むことができた。生徒会活動も生徒を代表して取り組んだ。学校評価における特別活動満足度が、前年度は大幅に上昇したが、今年度もそれに匹敵する81.0%であった。

課題：3年生が卒業し、全校で通常形で文化祭、体育祭などの学校行事を経験した在校生がいなくなる。このため、実行委員会や委員会活動などにより、行事の計画、運営などを計画的に行っていく、生徒の自主的活動を高めることが必要である。また、部活動や生徒会活動等の活躍をサポートできる体制をつくる必要がある。

考察：特別活動満足度は、部活動、学校行事、委員会・当番活動の3点について別個に尋ねた上で総合的

に満足度を算出した。肯定的回答の内訳は、部活動が72.7%、学校行事が85.1%、委員会・当番活動が85.2%であった。今年度も制限が多かった中で、工夫をして取り組んだ部活動や学校(学年)行事、委員会・当番活動の成果があったと思われる。特別活動の果たす役割は大きいので、課題に記した点の克服などを含め、校内で実施に向けた体制を整備していく必要がある。

#### (6) 広報活動

成果：学校評価における学校満足度は、前年度とほぼ同様で、生徒は59.5%、保護者は共に81.0%であった。コロナ対応で人数制限をし、学校説明会の参加者数は1388名とほぼ昨年度と同数であった。また、入選においては、中進対志願倍率は、昨年度と同じ1.28倍、推薦応募倍率は1.6ポイント増の2.83倍、第一次募集応募倍率は0.8ポイント増の1.49といずれも上昇し目標を達成した。ホームページの更新は239回で昨年度より、30回増えた。

課題：学校満足度は昨年度とほぼ同様であったが、さらに教育の充実を図り満足度を上げる必要がある。今年度もコロナ対策のため、地域、上級学校及び企業との連携による教育活動は制限が多く実施がままならなかった。学校説明会、学校見学も同様であった。今後も、工夫しながら、学校の取組・良さの積極的発信、地域との連携、小・中学校との交流等を行っていき、地域の子供たちに模範を示してほしいという地域の要望に答えていくことが必要である。

考察：今年度初めてオンラインによる中学生向けの授業公開を行い、コロナ禍において本校の授業の様子を伝えることができた。授業学校説明会、学校見学では、作成した生徒による学校紹介の動画を流し、生徒からの学校の魅力を伝えることができた。外部の学校説明会、中学校の学校紹介などにできるだけ参加した。また、制限は多かったが、部活動見学等により中学生への部活動紹介ができた。入選倍率は昨年度よりさらに上げることができたが、今後も、できうる限り、工夫を凝らし、広報活動を行っていくことが必要である。

#### (7) 組織運営

成果：分掌・学年・委員会・PT組織と経営企画室との協働体制の構築と職責に応じた業務の遂行により、適切で有効な学校運営を遂行した。また、OJTなどにより人材育成が図れた。サービスの厳正・個人情報管理の適正な管理を内容とする研修は年度当初と2回悉皆研修として実施し、それらの意識を高めた。起案による適正な文書管理については、電子起案が浸透し、迅速で確実な文管理を推進した。学校評価の記述では、生徒、保護者からは、各教科の小テスト、グループ活動、放課後補習、チューターの活用、長期休業中の講習、テスト期間の7時間目、特進クラスの編成、英検・GTEC等の指導、自習室の活用、進路ガイダンス、面接指導、キャリア教育の内容、朝の通学指導、遅刻者指導、生徒相談体制の充実等が本校の取組で効果があることとして挙げられた。地域の方は、コロナ禍により来校する機会は減っているが、生徒のマナーがよくなってきた、通学時や地域活動の中で声掛けや手助け・見守り活動を行っていきたい、などのお意見等をいただいた。

課題：委員会・PT組織の改定を行ったが、さらに業務の効率化を図れる組織に改編していく必要がある。学校の方針に合わせ、各学年の運営がずれることがなく実施していくことが必要である。生徒、保護者からは、学習指導、補習・補講などの要望が多く挙げられた。授業改善や組織体制の整備を図っていく必要がある。

考察：今年度も、学校各組織の運営により、適切で有効な学校運営を遂行した。グランドデザインをもとに50周年後の中長期的な学校のあり方を確立し、今後も常に学校組織、学校運営を検証し、組織改編も行いながら、組織運営を行っていく必要がある。英語教育推進校、学力向上研究校(校内寺子屋事業)、ALCMコミュニティ参加校等の施策を活かした学校運営も効果的に実施できたと思われる。本校の学校運営に対する学校評価では、概ね肯定的な回答の割合は8割から9割以上であったが、まだ肯定的な意見の割合が低い項目については、計画的、組織的な対応していく必要がある。

#### (8) 働き方改革

成果：本校教職員の1月までの6カ月平均定時外在校時間36時間で45時間を下回った。

課題：1月までの6カ月平均定時外在校時間70時間以上80時間未満が4名、100時間超が2名であった。昨年度よりは、平均定時外在校時間が改善されたが、さらに改善の必要がある。

考察：ここでは成果とも重なるが、業務の効率化については、校内分掌とは別の委員会やPT等の意義と役割を踏まえ、整理・再構成を図られ組織運営を行った。今後、今年度の運営面での課題を踏まえ、さらに整理・再構成を行う。昨年度に引き続き、特定の教職員に負担が集中しないよう、担当業務の内容を精査し、校務分担の均一化を図った。各部署の業務の見直しを図り、さらに効率化を図れるようにしていく。また、個人作成のデータや資料を全体のフォルダに格納し、共有することで、業務の省力化を図った。経営企画室との連携のもと、業務の効率化を図れるよう物品、設備についても導入を図った。長時間労働の解消と適切な健康管理については、「個人別在校時間管理表」をもとに、産業医と連携して、業務縮減や心身の健康維持に対する具体策について指導・助言し、在校時間の多い教員の減少を図った。